「今やらないと手遅れになると言われたー絶望的な非抜歯拡大矯正ー」

富山県　魚津市開業　関　康弘

インプラントと矯正をメインにして治療を行っている歯科医院からの転医症例である。

転医時年齢11歳８ヵ月の男児。前医の矯正によって、「上の奥歯は後ろに移動したようだが、上の前歯の突出と開咬、口唇が閉じにくいこと、前歯でものがかみ切れないこと」を主訴にして来院。口腔内には、上下顎ともに3D-リンガルアーチが装着されている。

母親の説明では、もともと上顎が下顎よりも前に出ていて、下の前歯が２本先天的に欠如しているとのこと。前医からは、「このままだと窒息するので舌房を拡大する必要がある。上下第１大臼歯が正しく咬み合っていないのでまず上下のかみ合わせの不具合を治すことが全身の健康につながる。混合歯列期と永久歯列期の２段階矯正を行って抜歯をしないで、先天的に前歯が生えてこなかったスペースを確保し将来的に（18歳頃に）インプラント治療を行う方針である。今やらないと手遅れになる」と言われて１年前から治療を開始したとのこと。ところが前述の不具合が出てきたことに対し、MFTを開始したものの、一向に改善しない理由を尋ねると「親の愛情のかけ方が悪い」とか「もっとアゴを前に出して咬めばよい」という前医の回答にショックを受けたこと、さらに２段階目の矯正治療を開始するからお金の準備をするように催促され、今後のことが心配になり、当院へ来院した。

当院では、上下顎の3D-リンガルアーチが撤去され口腔内に装置が何もない状態で経過観察を行い、第２大臼歯が萌出してきた12歳８ヵ月時に、下顎両側側切歯先欠を伴う上突咬合と診断して、上顎両側第１小臼歯を抜歯して上下顎マルチブラケット装置による矯正治療を開始した。動的治療期間２年９ヵ月にて治療を終了したケースについて報告する。

[略歴]

関　康弘　（せき・やすひろ）

1987年３月　新潟大学歯学部卒業

1987年４月　新潟大学歯学部・歯科矯正学講座・入局

1992年３月　新潟大学大学院歯学研究科歯科矯正学専攻・博士課程修了、 学位：博士（歯学）

1992年４月　医員（新潟大学歯学部附属病院・矯正歯科）

1993年８月　文部教官・助手（新潟大学歯学部・歯科矯正学講座）

1994年４月～1995年３月　医局長（新潟大学歯学部附属病院・矯正歯科）

2000年３月　退職（新潟大学歯学部・歯科矯正学講座）

2000年４月 ～2002年３月　あすなろ小児歯科医院（富山市・矯正歯科・副院長）

2001年７月　せき矯正歯科医院開業 （魚津市・矯正歯科・院長）